

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 その92-① (新編)

文：廣瀬 渉

水を買って米を作る

上野尻には、大沼、沢入、^{こかにざわ}小蟹沢の3つの堤があり、いずれも田んぼや防火用水などの重要な水源となっています。近年、各地区で水不足が課題となっていますが、上野尻においても例外ではありません。小蟹沢の堤は貯水量が一番少ないので、平成30年(2018)8月17日、水不足を解決しようと、上野尻地区役員や先輩役員など有志8人で、小蟹沢の堤の水源の1つである^{こいとぎき}越戸堰の再利用のため調査を行いました。堤の上流から尾根に上っていくと、堰の跡がはっきりと残っていました。堰は山の斜面に造られ、相当難儀な工事であったことがうかがえます。さらにたどっていくと尾根にぶつかり、水路が消えていました。先輩の話では、ここから先はトンネルになっていたとのこと。残念ながらそこは土砂が崩れ、埋もれてしまって水路の跡形もありませんでした。やむを得ず、尾根を越え、川谷の大ひらきの沢にたどり着き、そこが堰の発端であることを確認し、山を下りました。

(次号へつづく)



▲小蟹沢の堤



今月は、13日に行われた野沢初市から。西会津大山さゆり太鼓メンバーの子どもたちだけで結成された「七色チーム」の皆さんを撮らせてもらいました。晴れ間を呼ぶ力強い太鼓演奏で初市のオープニングを盛り上げました。

今月の表紙